

オープン市場短信 (2005年8月)

2005.8.05

7月のCP市場動向

7月のCPの新規発行は、約3兆9,500億円と先月に引き続き期落ち(約3兆5千億円)を大幅に上回った。中旬以降、新規発行が増加し前年同月比でも約6千億円の増加となった。順調な発行が行われている背景としては、CPの発行レートが過去最低水準で推移している中、低コストの恩恵を利用し積極的に資金調達を行っているリース銘柄が増加していることや、電子化によって発行体の事務負担等が軽減され、ショートタームでの発行がしやすくなっていることにも因るのだろう。

7月末現在の電子CP発行残高は、19兆2,214.70億円(前月比約9,234億円増)となっており、国内CPのほとんどが手形から電子CPへの移行を完了したと考えられる。残るは、資金決済(決済時間帯等)のルールの確立や現先取引にかかる事務負担の軽減化といった流通市場の問題ということになる。7月の新規発行企業数は21社、7月末時点の発行登録企業数は358社で、既発行企業は約79%に当たる283社になった。

発行レートは、ディーラーや投資家のニーズが強いことから、ほとんどの銘柄で前回発行レートに比べ弱含みの動きで、底値圏を探る展開となっていた。また、従来やや強含みとなっていたノンバンク・リース銘柄についても、ディーラーが中心となって積極的な引受・購入が行われたことからレートが低下し、銘柄間格差の縮小が進んだ。

銘柄別の発行レート

【最上位格付け銘柄】0.003~0.01%台割れ。

【オペ適格銘柄(a-1)】0.006~0.015%前後。

【ノンバンク・リース会社】a-1+銘柄 0.001%台~0.01%近辺。

a-1銘柄(オペ適格)0.01%近辺~0.08%台。

【a-2格銘柄】0.01%台前半~0.20%近辺。

CP オペ

ABCP買切りオペは今月も2回オファー(7日・20日)され、オファー金額はいずれも1,000億円で応札したのは都銀1行のみであった。オファー日は市場の予測どおりであったが、投資家のニーズが強いことなどから、ディーラーの手持ちのオペ適格玉は品薄状態が続いているようである。

CP現先オペは、月中4回の期日ロールが行われた。月初の第1回目のオペは、6月末の大量発行を受けて足切レート・平均落札レートともに強含みとなった。しかし、2回目以降は応札玉が各回5千億円以上あったにもかかわらず、ディーラーの対応は落ち着いており、足切レートは0.001%に低下。平均落札レートは0.001~0.003%であった。

7月末のCP オペ残高

ABCP 買切りオペ 379 億円

CP 現先オペ 2兆7,521 億円

(内資産担保 CP225 億円/短期社債・短期外債 2兆575 億円/資産担保短期債券 5,481 億円)

ABCP

7月末のABCPの発行残高は、約5兆6,400億円と前月(5兆6,600億円)比若干減少し、前年同月比ではマイナス2,600億円であった。

現先市場

月中現先レートは、0.004~0.008%のレンジでの出会い。

8月のCP市場動向

8月中のCP償還は約3兆2,700億円と、前年同月(約2兆8,700億円)よりかなり増加している。電子化によって、手形よりも短い期間での発行がしやすくなっていることから、電力会社を中心に1ヶ月程度のショートターム物発行(7月発行の45%程度)が多くなり、8月償還が増加していると思われる。当面、短期金利の環境に大きな変化は無いと見られるため、今後もショートタームでの発行が膨らんでいくだろう。

発行レートは、期越物のレートが期内物に接近する方向で低下が進んでいくと思われる。一般銘柄はもとよりノンバンク・リース銘柄(オペ適格玉)についてもディーラーの購入ニーズが強くなっている。今後は、非オペ適格玉にも徐々にその動きが広がっていくのではないかと。

CP オペ

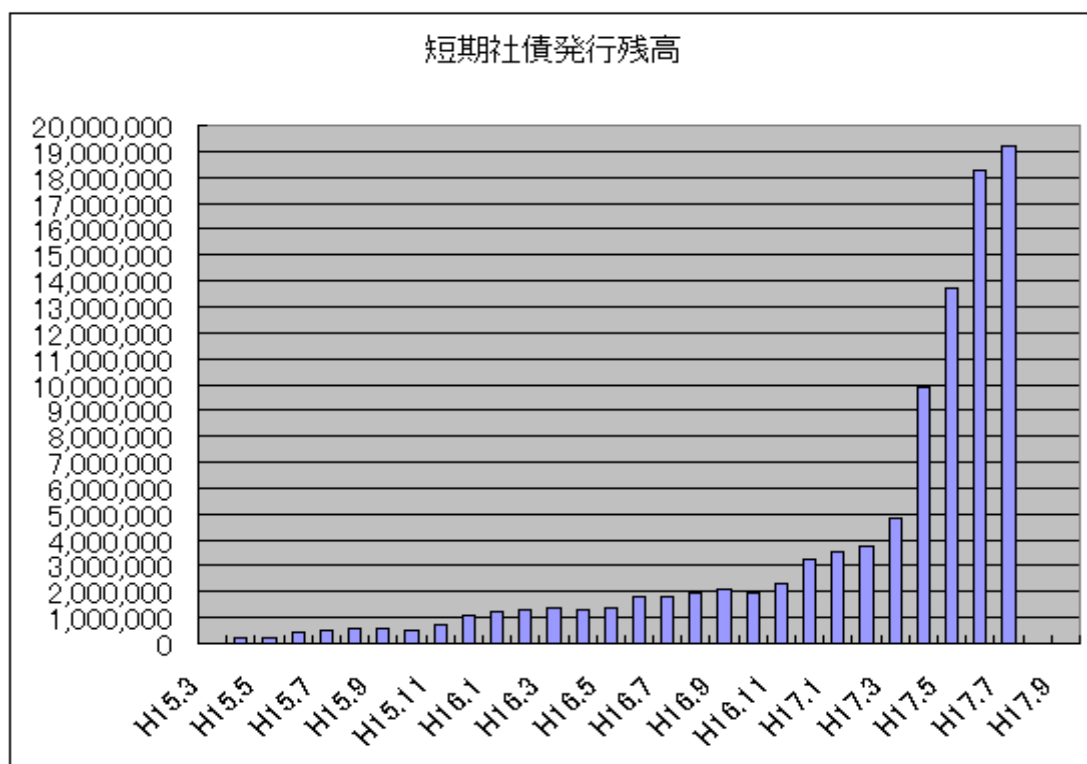
ABCP 買切りオペは、買い現先オペからの戻り玉もあることから、2回程度実施されるだろう。現先オペについては、7月同様4回の期日のロールが行われる見込み。9月末越えのオペが始まり、足切レートは若干強含みとなるだろう。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/Nともに0.003~0.007%、ターム物で0.005~0.008%近辺での出会いを予想。

(松倉)

短期社債月末残高 (H15年3月~H17年6月)



参考出所 (株)証券保管振替機構